第３回大阪府中高生ビブリオバトル大会　高校生部門　決勝の本の紹介の概要

・平成29年12月16日に開催された標記大会の決勝における各バトラーの本の紹介を簡

単にまとめたものです。本を選ぶ際の参考にしていただけますと、幸いです。

　（発表順）

○『カエルの楽園』　百田　尚樹　著　新潮社

府立狭山高等学校

平和で安全な国をめざしてカエルが旅をし、やっとの思いでたどり着いた「ナパージュ」という国。「ナパージュ」には、三戒という約束事があるため、他の動物には襲われないとい言いますが･･･。

この物語には、裏設定があります。「ナパージュ」と現在の日本は置き換えることができます。例えば、「ナパージュ」の三戒と日本の非核三原則のように。

この物語は、カエルに着目するとファンタジーとして読むことができますし、裏設定に着目すると戦争に巻き込まれたらどうしたらいいか、また巻き込まれないようにするためにはどうすればいいかを考えながら読むことができます。

政治について普段興味がない人には、カエルが主人公の話のため大変読みやすく、政治について詳しい人には、現在の日本と比較しながら読むことができて、とても政治に興味がわいてくる本です。

○『かがみの孤城』　辻村　深月　著　ポプラ社

関西創価高等学校

学校に行きたくなかったり、社会が生きづらいと思ったりしたことがある人に読んでもらいたい本です。

主人公は、いじめにあって現在不登校。部屋の鏡が光り始めてお城へ招かれると、同じような不登校の子どもたちが６名いました。城には、願いの鍵が１つあり、２つのルールを守って、その鍵をみつけた子どもは願いが１つかないます･･･。

この物語はミステリーです。さまざまな伏線を見事に回収し、最後には感動します。

私がおすすめする理由は２つあります。１つは、この物語を読むと、悩んでいるのは自分１人だけじゃないと勇気づけられ共感できるからです。もう１つには同世代の人だけでなく、大人の人に読んでほしいからです。大人は敵じゃない、大人も悩みながら誰かに支えられて生きています。

この世界は、助け合いながら、支えられて生きていく世界なのです。

○『おいしく食べて体に効く！クスリごはん』

ヘルシーライフファミリー（編）　リベラル社

　浪速高等学校

風邪気味な人、口内炎ができている人、肩こりに悩んでいる人、この１冊で対応できます。私は小学６年生の時に母から紹介されてこの本と出会い、みるみる元気になりました。イラスト形式で子どもでもわかるような簡単な言葉でも書かれているので、みんなで楽しめる本です。

内容は、ある家族がいろいろな病気にかかり、その症状をおばあちゃんやお母さんがこの本の中に出てくるレシピで治したり、緩和したりする話です。例えば、二日酔いにはシジミの味噌汁をのむと楽になると言われますが、なぜ効くのかを詳しく説明してくれます。

また、私は胃痛に効くというじゃがいものチーズ焼きをよく作りますが、他の料理も身近な食材で簡単に作ることができます。他にも集中力を高めたり、緊張を和らげたりする入浴剤として、ハーブも紹介されています。

１１００円で皆さんの健康を買うことができます！

○『桜のような僕の恋人』　宇山　佳佑　著　集英社

　府立堺東高等学校

春、主人公の晴人は美咲に恋をします。出会いは美咲が働く美容室。お花見に誘おうと、晴人は振り向いて声をかけます。しかし、今は散髪中。美咲は晴人の耳たぶを切り落としてしまいます…という衝撃的なシーンからこの物語は始まります。おわびデートをきっかけに２人は距離を縮め、付き合い始めます。幸せがずっと続くと思っていましたが、美咲の身体に病気が見つかり、美咲は一方的に別れを告げます……。

これは、２人が出会った春から次の春を迎えるまでの物語です。

　この本を選んだきっかけは、表紙が綺麗だったからと、この本のおかげで多くの人と出会い、仲良くなれたという思い出の一冊だからです。

　私には夢があります。その夢に向かって走っています。だから、美咲や晴人が夢を追いかける姿に励まされました。必ず何か考えさせられるものがあると思います。ぜひ読んでみてください。

○『ぼくのメジャースプーン』　辻村　深月　著　講談社

　府立今宮高等学校

あなたの大切な人が誰かに傷つけられたら、きっとあなたは怒りに震え、悲しむことでしょう。でも、傷ついた人と同じ傷を負うことはありません。それなのに、どうしてあなたは怒り、悲しむのでしょう。その訳を言葉で伝えられますか。

不思議な力を持つ主人公、「ぼく」。幼馴染で、クラスの人気者、そして「ぼく」の大好きな「ふみちゃん」。彼女が学校で大切に飼育していたウサギが無残に殺されます。犯人の医学部生に問われる罪は、器物損壊、動物虐待です。でも、この事件で壊れてしまったのは「ふみちゃんの心」なのです。

「ぼく」は、犯人と会う機会に、自分の持つ不思議な力を使うことを決意します。その力を使って「ぼく」はどんな裁きを下すのでしょうか。傷を負った人を支えるものは、何なのでしょうか。その答えがこの本にはあります。